

[個別研究]

保育所における子どもの健康・安全管理に関する親の意見

母子保健研究部 齋藤幸子
高野 陽
千賀悠子
宮原 忍

要約：保育所に子どもを預けている父母に対して行った「子育てに関するアンケート」調査から、保育所に対する親の要望のうち健康・安全に関する内容を抽出し分析した。設問は自由記載形式で、回答は281件（父親66人・母親215件）であった。

親の保育に対する要望は、まず第一に、保育所が子どもの急病やけがなどの緊急時に適切な対応がとれることであった。第二点は、個々の子どもの体調や発達の状態に応じたきめ細やかなケアであった。

この2点に対応するためには、子どもを中心に据えた、保育・医療・家庭の連携が不可欠である。しかし、現状では、保育・医療の連携や、保育所と家庭のコミュニケーションは不十分な場合があった。保育職・医療職の適切な人員配置を含め、医療と連携した子どもの健康・安全を保障する基盤整備が望まれる。

キーワード：保育所、健康管理、安全管理、

A study on the opinion of parents according to health care at day-nurseries

Sachiko SAITO, Akira TAKANO, Yuko CHIGA, Shinobu MIYAHARA,

Summary: A survey was made on the opinion of parents at day-nurseries. This research is based on 281 valid answers(66 from fathers and 215 from mothers).

Parents worried if their children would fall ill suddenly or injure themselves seriously during the day-time. They wanted children to be treated by day-nursery staffs in cooperation with medical staff.

Parents wanted their children to be cared for more individually according to their condition by the nursery staff

Cooperation between parents, day-nurseries and medical staff is necessary to improve the quality of life for children.

key words : day-nursery, health, safety

I 研究目的

少子化対応策の一環として、保育所の拡充がすすめられつつあるが、親が子どもを預けて安心して働ける保育体制としては、保育所や定員の数の増加のみならず、保育の内容や健康・安全管理などその質が問われている。厚生科学研究「少子化についての専門的研究」¹⁾で行った「子育てに関するアンケート調査」において、保育所の健康・安全管理についての親の満足度は高く、ほぼ80%の親が満足していた。しかし、不満をもつおよそ20%の親たちは、保育所・子ども・家庭の関わりのどこかに問題を感じているといえよう。また、アンケート調査において、その設問では「満足」と答えていても、自由記述欄では種々要望を書いている例もみられた。今回は保育所における健康支援について検討するための資料を得ることを目的として、親の保育所への要望を分析した。

II 研究方法及び対象

保育所に乳幼児を通わせている保護者を対象に「子育てに関するアンケート調査」を行い、その中で「子どもの成長に関して、保育所や保育者に配慮して欲しいこと」について、自由記述方式の回答を求めた。この中から子どもの健康・安全に関する記述したものを抽出し分類整理を行った。

調査対象は全国の保育所に子どもを預けている男性2,276人、女性2,783人で、自由記載に記入をした男性は458人、女性は1,063人であった。このうち、子どもの健康・安全に関する記述をしたものは男性63人、女性196人であった。

III 結果

抽出した項目は男性63人から66件、女性196人から215件であり、その計281件について、表1のごとく1~8の大分類に、さらに中分類・小分類に整理した。

1. 病気・けがの時の対応

病気・けがなどに関する記述は90件であった。最も多い要望は病児保育36件であり、「病児保育をやって欲しい」という記述と「病気の時は別室で」または「保健室があるとよい」などの具体的要望があげられた。すでに病児保育がある場合は「助かっている」「病児保育の父母会運営を保育所の運営にしてほしい」などあげられた。運営面では、「病児

保育を希望するが、現状の行政から保育所への補助の体制で実施することは、保育者の労働条件を今以上に悪化させることになるため反対する。」との意見もあった。

病児保育の希望に次いで多かったのが「服薬」16件である。服薬については、「せめて薬を飲ませて欲しい」他、現在実施している場合は「確実にして欲しい」「手続きの簡素化」などの問題点もあげられた。体調不良児への対応は「体調について連絡していることへきちんとした対応をして欲しい」「しっかりみてほしい」など、親の不満と心配な気持ちを表わす記述がみられた。

アレルギー児への対応は食事に関する「食事制限に対応した食事」「メニューの工夫」「何を食べたかの連絡」他、「皮膚を保護するためのケア」など、きめ細かい対応が求められていた。「保育所で動物を飼うことをやめて欲しい」という意見もみられた。

突然の病気・けがについては「緊急時に対応できる体制が欲しい」という意見があり、具体的提案はないが、何らかの医療面での対応が求められていると考えられる。保護者への連絡は「速やかに」「小さなことでも早めにきちんと、隠さずに知らせたい」との記述と、すぐに親を呼び出さず「少し様子をみてからにして欲しい」という2つのタイプがあった。また、保育者が事故・けがの状況を説明できない場合に親は不安を感じていた。

2. 安全・衛生管理

安全・衛生管理については50件の記載があった。

事故予防と対策では「しっかりみていて欲しい」

「人手が足りなくて、目が行き届いていない」「けがが多い」など心配な様子が記述されていた。事故時の対応についても「保育所は事故の責任について自覚が足りない」など不満点も出された。

感染予防面では、「伝染病の発生の連絡は早めに知らせたい」という記述があり、連絡の不徹底な場合があることが明らかになった。「感染予防に配慮して欲しい」では「手洗いの敢行」や「風邪の子どもとの一緒に保育への不安」などのほか、働く親の時間的な負担となっている「予防接種を保育所で」という希望もだされた

衛生面では「保育所の備品に清潔感がない」「コップの使いまわしやめて」「保育中の掃除機の使用は換気に配慮して」などがあげられた。環境としては「室温調節を管理してほしい」「広さ・段差・音などのストレスのない環境」など質の向上が望まれていた。

3. 医療職との連携

医療職との連携では「けがや病気の時の小児科医との連携」のほか「健康相談」の希望があがった。「医師や看護・保健職（学校の養護教諭にあたる人）」が配置されることが希望としてあげられた。

4. 健康管理

健康管理に関する記述は17件であった。日常の子どもの健康チェックとして、「検温、鼻、咳などチェックして欲しい」「熱に気がつかないことがある」など、もっとよく子どもをみて欲しいという希望があがった。健康診断については「健康診断や身体計測の結果を知らせて欲しい」という基本的な事項の不徹底が認められ、「健康診断の回数」「健康診断の内容（耳鼻科希望）」など健診内容の充実について希望があがった。

5. 健康増進

健康増進に関する記述は39件であった。薄着で保育している場合「体調・気温への配慮して欲しい」などの疑問があげられた。運動については「もっと運動させて欲しい」「園庭がせまい」「外遊びを」「雨の日の工夫を」「運動指導の専門家を」など、施設と内容についてあげられた。

「病気・健康に関する情報提供をして欲しい」という子どもを預かるだけではない、保育所の情報提供機能への期待があげられた。

6. 食事

食事に関しては33件であった。食事内容・材料について「添加物・環境ホルモンのない」という安全性や「手作り」が求められており、延長保育の場合の夕方おやつの内容も検討課題である。

離乳食では「親の意見を聴いて欲しい」との要望があがった。食事の内容については「そまつ」など不満があげられる一方、「家庭への栄養・調理指導して欲しい」という期待もあげられた。食事指導では「偏食」について「偏食を直して欲しい」との積極的要望がある一方、「無理にたべさせないで欲しい」との意向もあがった。

7. 生活

食事以外の生活面では34件の記載があがった。睡眠については「個々にあった時間で」という希望と、小学校入学をひかえた時期に「年長児は昼寝をやめて欲しい」が主であった。

身の回りの世話については「おむつ替えの回数が足りない」「おむつかぶれになる」「気温の変化にあわせて、被服の調節をして欲しい」「排泄指導」「はみがき指導」などいずれも、もっと手をかけて欲しい様子があった。

8. その他

その他の記述では、保育者の子どもへの関りの中で、主に子どもの発育・発達に関する事項を取り上げた。親は、個々の子どもの体調や発達の状態に合わせた保育を望んでいた。「保育士の中で、障害をもっている子の知識をもっている先生がいると安心してあずけられる」という記述もあった。

保育者の専門性については「医師でも看護婦でもないのに」医学的な指導を受けたことに対する疑問があがった。

IV. 考 察

1. 保育と医療の連携

病児保育のニーズの高さは、多くの調査で実証されているが^{4) 5)}、本調査でも病気の時の対応についての記述は最も多かった。親たちは、子どもが保育中に急に体調をくずしたり、事故でけがをした場合の対処について不安を抱いていた。また、発熱はしていなくとも、体調がよくない状態で保育所に通う子ども達がいる実状があり、服薬の希望もあがった。従来からある「保育所は健康な子どものみを預かる」という建前は、このような実態を前にすれば、もはや通用しないことは自明であると言えよう。近年では、日本保育協会の調査³⁾によれば、保健室の設置してある保育所は40%とその環境は整備されつつある。すべての保育所で保健環境の基盤整備と医療との連携が進むことが望まれる。

2. 個別対応と子どもを「みる」ということ

親の要望で各所であげられたキーワードは、「子どもの状態にあった」とである。個々の体調・体質・発達にあったよりきめ細やかなケアを望んでいる。そして、「もっとよくみてほしい」との記述は、体調の変化に気づかず放置されていたり、保育者の観ていないところで起きた事故などへの心配や不信感であった。子どもを「みる」ことの専門性が問われると共に、医療職を含めた人員配置の適正についての検討が必要であろう。

3. 家庭と保育所の連携

今回の保護者の記載の中には、アンケートに記入するだけでなく保育所へ直接要求すればよいと思われる内容も見られた。親が保育所にさまざまな意見を「言えない」状況が問題である。「健康診断結果」や「伝染性疾患の発生や流行」についての通知は、直ちに改善の必要がある。保育所から親への健康に関する情報の提供や健康相談、調理指導の希望もあがり、保育所に対する情報提供の機能が期待さ

れていることが分った。

しかし、保育所と家庭の関係が、保育所側からの情報提供や健康支援という一方通行の関りでは不十分である。保育所と家庭の連携については、平成11年度改訂された保育指針⁶⁾の保育の基本に「保護者の協力の下に」との文言が加わっている。親が子どもの生活に高い関心を持ち、保育所と親がともに話し合い問題解決していく姿勢が大切である。

4. 健康生活の基盤としての保育環境

健康増進・食事・生活については、同程度の記載件数があり、いずれも関心が高いと言えよう。前項で述べたように、これらの要望がどの程度、保育所に伝えられているかは不明である。「人手が足りないことがわかっているので言えない」という記述も見られた。「もっと運動させて欲しい」「安全な食事をあたえたい」「室温にあわせて着替えをさせて欲しい」「おむつを替える回数を増やして欲しい」など、子を持つ親として当たり前とも言える要求に対して、保育所が応えて行くことが望まれる。「園庭がせまい」「音の問題」「ストレスのない空間」「エアコン設置」などハード面の問題もあげられ、まだまだ基本的な生活環境を充実させて行く必要性がある実情が分った。

親側からみた保育所における健康・安全管理面についての意見は以上の通りである。自由記載の分析であるため、どのような要求が多いかについての数量的な言及は控えた。本結果を参考に、系統的な項目だてによる調査が行われることが望まれる。その場合、親とともに施設側の実態調査が必須である。

V 結 論

親が安心して働くことができるための保育サービスとは、とりもなおさず子どもの健康・安全を保障する保育である。親が子どもの生命を預けられる保育所とは、まず第一に、病気や事故などの緊急時に速やかに適切な対応がとれる機能を備えていることである。言うまでもなく、それは、医療との連携の上に実現するものである。日常的には、施設内の安全・衛生面の基盤を整備していくことが重要である。

第二点は、個々の子どもの体調や発達の状態に応じたきめ細やかなケアである。目の前の子どものニーズに答える保育者の専門性が問われると共に、医療職を含めた適切な人員配置についての検討が必要であろう。

第三点としては、保育所と家庭の連携があげられる。保育所と親がコミュニケーションをよくすることが、保育の質の向上に寄与し、子どものQOLを高め、親の安心感を高めることができるであろう。

子どもを中心に据えた、保育・医療・家庭の連携が子どもの健康で安全な生活を守るために、不可欠である。

この研究は、平成11年度厚生科学研究補助金によって収集したデータを使用した。

文 献

- 1) 高野陽、他：「社会環境が結婚・出産・育児に及ぼす影響に関する研究」、厚生科学研究平成11年度研究報告書、2000（5/6冊）、P92-99.
- 2) 社会福祉法人 日本保育協会、保育所入所児童健康調査報告書-保育所における体調不良児の保育一、平成10年.
- 3) 財団法人婦人少年協会、幼児期の子の母親の生活と実態に関する調査、平成6.
- 4) 日本総合愛育研究所、病児デイケア・パイロット事業調査研究最終報告書、平成5年度
- 5) 社会福祉法人日本保育協会、体調不良児の保育に関する調査研究報告書（平成11年度）、2000.
- 6) 厚生省児童家庭局、保育所保育指針、社会福祉法人日本保育協会、1999.

表1 子どもの健康に関して、親が園や保育者に配慮して欲しいこと（自由記述）

大分類	中分類	小分類	男性	女性	
1 病気・けがの時の対応	90 病児保育	36 病児保育の希望	4	21	
		病時の対応希望（別室／保健室）		9	
		病児保育があつて助かっている		1	
		病児保育の父母会運営を園の運営へ		1	
	服薬について	16 服薬させて欲しい	3	10	
	服薬させてくれるが、確実にして欲しい、手続きの簡素化		3		
	体調不良児への対応	7 体調不良児へ対応したの保育、しっかりみてほしい	3	4	
	アレルギー児への対応	11 食事制限への対応、メニューの工夫、何を食べたかの連絡、皮膚を保護するためのケア、動物を飼うことをやめて欲しい	3	7	
		アレルギー児への対応へ感謝している		1	
	突然の病気・けがへの対応	6 突然の怪我や病気に対応できる体制が欲しい。	1	5	
病気・けがの時の保護者への連絡	14 速やかに、ちいさなことでも早めにきちんと、隠さずに知らせたい。	少し様子を見てからにして欲しい		2	
		事故・怪我の状況を説明できない場合がある。不安。	2	4	
		2 事故・けがの予防対策（しっかりみて欲しい）	14	8	
		事故時の対応（園の責任について自覚が足りない）	2	4	
2 安全・衛生	50 事故予防と対策	9 伝染病の発生の連絡（早めに知らせたい）	1	4	
		感染予防に配慮して欲しい	1	2	
		予防接種を園で		1	
衛生管理	6 清潔感がない、コップの使いまわしやめて、保育中の掃除機		6		
環境	7 温度調節を管理してほしい、広さ・段差・音などのストレスのない環境		7		
3 医療職との連携	7 嘱託医との連携 医療職の配置希望	3 小児科医との連携（けがや病気の時、健康相談）		3	
		4 医師や看護・保健職（学校の養護教諭にあたる人）の配置		4	
4 健康管理	17 健康チェック 健診について	6 検温、鼻、咳などチェックして欲しい、熱に気がつかないことがある	2	4	
		11 健康診断や身体計測の結果を知らせて欲しい		8	
		健康診断の回数	1	1	
5 健康増進	39 健康増進	健康診断の内容（耳鼻科希望）		1	
		34 到着への疑問（体調・気温への配慮して欲しい）	2	8	
		もっと運動させて欲しい（園庭がせまい、もっと外遊びを、雨の日の工夫を、運動指導の専門家を）	8	16	
情報提供	5 病気・健康に関する情報提供して欲しい	1	4		
6 食事	33 食事内容・材料	20 安全（添加物・環境ホルモンのない食品、手作りおやつ、夕方おやつの内容）	5	11	
		食事（親の意見を聴いて欲しい）		1	
		食事の内容（不満・そまつ）	2	1	
		食事指導	6 食事（ムリな偏食指導）		1
		食事指導（しつけ）		2	
		食事指導希望（偏食）	1	2	
		食事その他	7 家庭への栄養・調理指導して欲しい		3
食事時間が短い		1			
栄養に関する教養と専門知識及び技術を高めてもらいたい。		1			
年齢にあった食事を		1			
食事・栄養満足している		1			
7 生活	35 睡眠 世話	5 個々にあった時間、年長児はやめて欲しい、		5	
		15 おむつ替えの回数が足りない、おむつかぶれになる、平等に		5	
		気温の変化にあわせて、被服の調節をして欲しい	2	7	
		世話（鼻水の放置）		1	
		排せつ指導	3 排せつ指導（もっと手をかけて）		3
はみがき指導	9 食後、おやつ後の歯ブラシをして欲しい。	3	6		
その他	3 靴下・内ズックの疑問、鼻水放置、テレビ間近で		3		
8 その他	10	10 保育者自身の健康管理		1	
		保育者の保健・医学の専門性への疑問		1	
		スキンシップ足りない	1	2	
		個別の発達に対応したかわり（保育者不足）	1	2	
		障害児保育の対応	1	1	
合計	281	281	66	215	